

10月21日 「紫金山・アトラス彗星」

先週、13日ごろからの天体ショーが話題になっているのを知っていますか。

「紫金山・アトラス彗星」が夕方、西の空に見えます。中国の紫金山天文台と、南アフリカのアトラス望遠鏡で発見されたので、そのような名前が付いたということです。

さて、彗星とはどういうものかということをお話する前に、まずは、太陽系というお話をします。私たちの住む地球と、水星、金星、火星などの星は、太陽の周りを回っています。

太陽から地球までの距離は1億5000万キロメートル、時速300kmの新幹線でも50年かかり、光の速さでも8分かかる距離だと言われています。太陽系の一番外側までは、その30倍の距離ということなので、とても大きいということが分かります。

太陽系の星は、太陽の周りを回っているということですが、地球は、1年をかけて太陽の周りを回ります。そして、最も外側にある海王星は、165年かけて、太陽の周りを回ります。外側に行くほど動く距離が長くなるわけです。

そこで、今回話題になっている「紫金山・アトラス彗星」ですが、太陽系の周りをさらに大回りに回っています。下の絵のようなイメージです。

地球が太陽の周りを回るのが1年 海王星が165年なのに対して、「紫金山・アトラス彗星」は、8万年だと言われています。8万年前に、地球の近くにやってきたことが、計算で分かりました。それでは、次は8万年後にやってくるのかというと、そういうわけではなく、今回は、地球や太陽から遠ざかったら、そのまま太陽系の外に出て行って、二度と戻ってこないということです。

では8万年前というのは、地球がどうなっていたかということですが、地球に、ネアンデルタール人がいた時代でした。

今日のお話は、上の学年で学習する算数の言葉が出てきて、少し難しかったかもしれませんが、彗星のことを調べてみると、時間も空間も、とてもとても大きいということを感じたのではないのでしょうか。

